

2020
University
Guide

神戸大学医学部保健学科

学 科 紹 介

Faculty of Health Sciences
Kobe University School of Medicine



CONTENTS

学科長メッセージ	2
アドミッションポリシー・ディプロマポリシー	3
TOPICS	4
専攻構成	6
カリキュラム	14
教員紹介	16
写真で見る神戸大学	21
キャンパスシーン	22
私たちの大学生活	24
卒業生からのメッセージ	26
CLUB & CIRCLE	30
INFORMATION	32
神戸大学医学部保健学科の沿革 神戸大学附属図書館保健科学図書室	33



学科長メッセージ



神戸大学医学部保健学科長 安田 尚史

神戸大学は、国際都市神戸に基盤を有する総合大学で、世界各地に研究拠点を持っています。その起源は官立神戸高等商業学校に遡ります。創立以来115年以上が経過していますが、伝統的に「学理と実践（実際）の調和」をその建学精神としてきました。その中で医学部保健学科は1994年に設置された比較的新しい学科ですが、神戸大学の精神は脈々と受け継がれています。

入学後最初の1年間は六甲台で高校とは違った大学の規模の大きさと自由で高い教育レベルを感じ取っていただければと思います。2年次からは、名谷キャンパスで本格的に専門教育が始まります。医学部保健学科は、看護学、検査技術科学、理学療法学、作業療法学の4専攻で構成されています。これまでに多くの優れた看護師、助産師、保健師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士を医療の第一線に送り出してきました。神戸大学で学ぶ皆さんが専門で学ぶのはそれぞれの国家資格取得のための科目はもちろんのこと、「健康科学」について、広く専門的な知識を身につけていただきたいと思います。そして、高いレベルの専門性を身につけたプロフェッショナルとして医療界で活躍していただきたいと思います。実際に、本学科の卒業生は、国家資格を取得し、医療専門職に就くだけでなく、行政機関、教育機関、研究所、国際保健機関や健康科学に関

連した企業に就職する学生が多い事も特徴です。

保健学科における教育の特徴としては、

- (1) 他の大学に先駆けて、多くの医療職種と協働してチーム医療を行っていくための多職種間協働教育（IPE：Interprofessional Education）をとり入れ、卒業後の多職種間協働実践（IPW：Interprofessional Work）まで継続してきた歴史があります。
- (2) 高度な専門知識と幅広い学識を持つ医療の専門人材を育成しています。看護学専攻では、助産師・保健師教育を大学院に移行し、学部の間は看護学の基礎から応用までの知識をしっかりと身につける期間としました。
- (3) 4年次の卒業研究に十分な時間をかけて、レベルの高い研究に触れるとともに、将来の多様な進路の礎となるように指導しています。

学部学生の間は、多くの授業・実習があり、知識・学識が増えるにつれ、さらに広く深く学びたいという学生の大学院進学数が近年増加しています。大学院保健学研究科には、博士前期課程（修士）各学年64名、博士後期課程（博士）各学年25名の定員があります。大学院では、看護学、病態解析学（検査技術学）、リハビリテーション科学（理学・作業療法学）の基幹領域に加え、融合領域としてパブリックヘルス領域があります。

皆さんには、世界に開かれた総合大学である神戸大学の利点を生かし、主体的に様々な分野の幅広い知識を習得し、また多くの出会いと交流を経験して、人間的に大きく成長されることを期待しています。現在、新型コロナウイルスの感染拡大の状況の中、大変不安な気持ちでの大学生活かと推察します。大学としても保健学科としても、皆さんの健康と安全、そして安心して学修して頂くことを最優先に考え対応しています。皆さんには前途洋々たる未来が開けています。現在の困難な状況に打ち勝って、是非とも新しい時代を切り拓いて頂きたいと願っています。

アドミッションポリシー・ディプロマポリシー

■ 神戸大学医学部保健学科が求める学生像 (アドミッション・ポリシー)

医学部保健学科は、「真摯・自由・協同」の精神の下、高い倫理観と科学的視点を持ち、高度な専門的知識・技能を身につけた医療人を養成するために、保健医療・健康科学に関する卓越した教育を提供することを基本理念としています。また、旺盛な探究心と創造性を身につけ、将来、それぞれの専門領域における指導者として、国際的に活躍できる人材の育成を目標としています。このため、次のような学生を求めています。

医学部保健学科の求める学生像

1. 明確な目的意識と旺盛な学習意欲を持った学生
[求める要素：関心・意欲]
2. ひとに対する深い思いやりと協調性、優れたコミュニケーション能力を持った学生
[求める要素：主体性・協働性]
3. 自ら問題を発見し、解決にあたることができる学生
[求める要素：思考力・判断力・表現力、主体性・協働性]
4. 保健医療・健康科学を学ぶために必要な自然科学および社会科学の基礎知識と日本語・外国語の基礎学力をそなえた学生
[求める要素：知識・技能]

高等学校等で修得しておいてもらいたい内容

「国語」：文章を読み解く読解力、明確な表現力。
「地歴・公民」：幅広く総合的な知識。様々な社会現象を捉える分析力。
「数学」：数学的思考力、表現力、総合力。
「理科」：自然科学の総合的理解力、論理的思考力。
「英語」：読解力、コミュニケーション力、表現力。

以上のような学生を選抜するために、医学部保健学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、以下の選抜において様々な要素を測ります。
一般入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」を測ります。
「志」特別入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。
社会人特別選抜では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。
私費外国人留学生特別入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。

■ 神戸大学医学部 保健学科 学位授与に関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

神戸大学医学部保健学科は、「真摯・自由・協同」の精神の下、高い倫理観と科学的視点を持ち、高度な専門的知識・技能を身につけた医療人を養成するために、保健医療・健康科学に関する卓越した教育を提供することを基本理念としています。また、旺盛な探究心と創造性を身につけ、将来、それぞれの専門領域における指導者として、国際的に活躍できる人材の育成を目的とする。
この目的を達成するため、以下に示した方針に従って学士の学位を授与する。

学位：学士(看護学) 学位授与に関する方針 (ディプロマ・ポリシー) 看護学専攻

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、医学部保健学科看護学専攻は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。
・ 本学部保健学科看護学専攻に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・ 神戸大学のディプロマ・ポリシーが定める能力に加え、卒業までに、本学部保健学科看護学専攻学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。

「人間性と倫理性」

- ・ 豊かな人間性と教養を持ち、保健医療における高い倫理性、柔軟性、協調性、当事者性を身につけた看護専門職者となるための基礎的能力。
- ・ ひととして、看護専門職者として生涯成長していく能力。

「創造性」

- ・ 論理的に事象を解釈し、ケアリングの視点を持ち、よりよいケアを創造する能力。
- ・ 主体的・自律的に行動し、看護の独自性・専門性を探求する能力。

「地域性・国際性」

- ・ 多様な文化・価値観を尊重し、地域・国際社会で活躍する基礎的能力。
- ・ 地域・国際社会における多様なWell-beingと健康課題に関心をもち探求する能力。

「専門性と協働」

- ・ 人々の生活の質(QOL)の向上をめざし、幅広い知識と確かな技術・豊かな感性を備えて看護実践する能力。
- ・ 医療の基礎学力と専門知識を習得した看護専門職者として、保健医療福祉チームにおいて協働する能力。
- ・ 科学的・論理的思考力、実行力、コミュニケーション能力を持ち、リーダーシップを発揮する能力。

学位：学士(保健衛生学) 学位授与に関する方針 (ディプロマ・ポリシー) 検査技術科学専攻

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、保健学科検査技術科学専攻は以下

に示した方針に従って当該学位を授与する。

- ・ 本学部保健学科検査技術科学専攻に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
- ・ 神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学部保健学科検査技術科学専攻学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。

「人間性と倫理性」

- ・ 医療チーム・研究チーム・教育チームの一員として卓越した人間性を備え、高い倫理観にもとづいた行動により、社会の第一線で活躍しうる臨床・研究・教育活動の能力。

「創造性」

- ・ 進取の気質と問題解決に対する柔軟な想像性を身につけ、社会に貢献できる新たな技術や機器開発に取り組む能力。

「地域性・国際性」

- ・ 疾病の診断・早期発見・治療評価や健康状態の把握に対して、地域医療の中心を担う能力。
- ・ 国際的な視野から検査技術と医療を俯瞰し、英語を用いて学術的に適切な情報収集と発表を行い、第三者と良好な意思疎通がはかれる能力。

「専門性と協働」

- ・ 医療検査技術についての高度の専門知識と検査技能を得るための主体的学習能力。
- ・ 医療従事者・自然科学研究者と協働して人間福祉の向上に寄与する能力。

学位：学士(保健学) 学位授与に関する方針 (ディプロマ・ポリシー) 理学療法専攻

神戸大学のディプロマ・ポリシーに基づき、医学部保健学科理学療法専攻は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。
・ 本学部保健学科理学療法専攻に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・ 神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学部保健学科理学療法専攻学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。

「人間性と倫理性」

- ・ 豊かな人間性と保健医療における高い倫理性を身につけた保健医療専門職者として臨床に携わる能力。

「創造性」

- ・ 標準的な理学療法の理論と技術を修得し、旺盛な探究心と創造力に加えて、課題を設定し解決することにより、理学療法とその関連分野の未来を創造する能力。
- ・ 先人の知識を尊重し、基礎・臨床研究を通じてエビデンスを創造する能力。

「地域性・国際性」

- ・ 多様な地域課題を把握し、貢献するための社会性を備えた能力。
- ・ 理学療法の理論と技術を通じて、国際的に活躍するための基礎的な能力。

「専門性と協働」

- ・ 医療の基礎学力と高度な専門知識を習得した専門職として、対象者や他専門職と相互に信頼し、良好な人間関係を築くことにより保健医療福祉チームにおいて協働できる能力。

学位：学士(保健学) 学位授与に関する方針 (ディプロマ・ポリシー) 作業療法専攻

神戸大学のディプロマ・ポリシーに基づき、医学部保健学科作業療法専攻は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。
・ 本学部保健学科作業療法専攻に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・ 神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学科学者が身につけるべき能力を次のとおりとする。

「人間性と倫理性」

- ・ 作業療法専門職としての豊かな人間性と高い倫理観を身につけ、社会の発展に積極的に寄与する能力。
- ・ 個々人の人権を尊重し、深い共感性を持って、対象となる方々の特性を理解し、自立に向けた支援を提供する能力。

「創造性」

- ・ 探究心と創造力を持って課題を設定し、解決できる実践的な能力。
- ・ 問題を解決するために、科学的な分析・考察をし、論理的に考える能力。

「地域性・国際性」

- ・ 幅広い視野を持ち、作業療法に関わる専門的知識を活用して多職種連携により地域社会へ貢献できる能力。
- ・ グローバルな視点で自らの課題を整理・理解するとともに、的確なプレゼンテーション、円滑なコミュニケーションをする能力。

「専門性と協働」

- ・ 医療・保健・福祉など各分野における高度な作業療法学の専門的知識および技術を習得するために主体的かつ継続的に学習する能力。
- ・ 高度な医療専門職として、チーム医療の現場で関連職種との優れたコーディネート能力を発揮し、協働する能力。

国際保健に関連する活動

近年、医療専門職者が国際保健分野で実践的に活動する機会が増えるとともに、我が国に対する開発途上国からの期待は益々高まっています。そこで保健学科では、大学で修得した学問の知識とスキルをより実践的なものにするとともに、チャレンジ精神やコミュニケーション能力を養うために、環太平洋諸国の大学と提携し、学部生の双方向型の交流を実施しています。「環太平洋諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成」と名付けたこのプログラムは総合保健医療を実践出来る国際的な高度保健専門職者ならびに教育・研究者を養成しようとするもので、所定の単位も認定されます。



海外の大学附属病院での実習・演習

地域連携センター

地域連携センターは、人文学研究科、農学研究科に設置された地域連携センターと協力して、豊かな自然、文化そして健康に恵まれたコミュニティづくりをめざしています。保健学研究科のテーマは、【少子高齢社会に適應した街づくり】です。研究科の構成員が培ってきた専門的知識を、乳幼児を持つ家族、高齢者そして障害を持つ人々が安心して暮らせる街づくりに活かそうとしています。地域連携センターは、保健学研究科と地域をつなぐ窓口の役割を担っています。現在、神戸市など兵庫県下の自治体、NPOと連携して、9つの事業が進行中です。また、活動に参加するボランティアへの研修事業も実施しています。毎週、実施されている教室活動のほかに、乳幼児をもつ保護者を対象としたプログラムや認知症の方のご家族を対象としたセミナーが実施されています。これらの活動概要はホームページ <http://www.edu.kobe-u.ac.jp/fhs-renkei/> で、みることができます。



IPW

IPW (Interprofessional Work) とは複数の専門職者がそれぞれの技術と役割をもって共通の目標を目指す協働のことです。現代社会における多様化・複雑化した保健医療福祉の課題とニーズに応え、対象者に安心・安全な質の高いサービスを実践するためには、多職種の協働が重要です。神戸大学医学部保健学科では、神戸大学医学部医学科、神戸薬科大学と連携し、1年次から4年次まで、体系的かつ有機的にIPWを習得できるカリキュラムを備えています。1年次の初期体験実習、4年次のIPW統合演習では、医師、看護師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、薬剤師を目指す学生のそれぞれが相互理解し、相互作用しながら、多職種の視点から対象者を捉え、ケアすることを合同で学びます。チームメンバーとして互いに尊重し、理解し、情報交換する過程を通して保健医療福祉の将来を担う、IPWの実践者の素養を身につけます。



解剖学見学実習

解剖学は看護学や検査技術科学、理学・作業療法学の基礎となる重要な科目の1つです。神戸大学医学部保健学科では、1年次後期から始まる解剖学の講義を通して身体の構造や機能を学んだ後、2年次後期に4専攻全ての学生を対象にして解剖学見学実習を行っています。理学療法学専攻は、3年次後期に2度目の解剖学見学実習が行われます。両実習では、遺族の了解のもと、実際の解剖学について、厳しくそして深く学びます。この実習では体内にある臓器の形や大きさ、臓器相互の位置関係などを直視下で観察して、講義で学んだことを3次的に深く理解するとともに、人体に個体差があることを理解します。さらに解剖学見学実習を通して生命の尊厳についても学んでいきます。この実習を通して学生達は医療職者を目指すことについて深く考え、自覚を強く持つようになります。



英語コース (International Course for Health Sciences: ICHS)

平成24年度より前期課程の大学院生を対象に英語コース (International Course for Health Sciences: ICHS) を開講しました。平成26年度からは後期課程の大学院生にもICHSが開講されました。これは、大学院生がその修学期間を通じて英語のみで単位を取得し、修了することができるコースです。専任教員による英語講義に加え、ネイティブ教員による通年の講義、また、夏季には東南アジアを中心とした諸外国からの講師によるSummer Educational Programを開講しています。本コースを受講することで、保健活動を展開するためのコミュニケーション能力や異文化理解能力を身に付け、海外における社会・経済状態や生活様式に適合した総合保健学を創造・実践することができます。国際貢献できるより高度な保健実践専門職者を養成することを目的としています。



家族支援専門看護師 (家族支援 CNS) コース

近年、家族問題が多発することで、家族のもつ役割や機能が見直されています。看護学においても、「家族看護学」という新しい分野が誕生し、本学はそのフロントランナーです。本学の大学院博士課程前期課程には、わが国に6校しか認定されていない家族看護のスペシャリストの養成コースとして、家族支援専門看護師 (CNS) コースがあります。CNSは、看護職の中では最上位の新しい資格で、看護界の将来を背負う役割が期待されています。2012年からは、診断・治療に関わり、ケア (看護) とキア (治療) を融合した高度な看護実践を展開できる家族支援CNS教育課程 (38単位制) を導入しています。本コースでは、研究から得たエビデンスや理論に基づいた家族支援を実践でき、国際的に活躍できる高度専門職業人の輩出を目指しています。



専攻構成

看護学専攻

看護学とは

看護学は、あらゆる「ひと」の「Life/生きること」の質を向上するため、人間の尊厳と権利を尊重し、ひとの「生命・生活・人生」と、共に影響しあう「環境」、そして、それらすべてを対象として包括的にとらえ、支援するための実践科学です。

本学では、人間の尊厳と権利を重視する看護専門職の基盤となる人間性、倫理性、創造性、専門性を育成するために、ケアリングを軸として、経験学習を重視した、卓越した看護学教育を提供します。さらに、地域性・国際性および協働の能力を培うために、保健学ならびに関連諸学問についての教育を提供します。

看護学の教育について

看護学専攻の教育の目的は、次のとおりです。

- ・看護専門職者として豊かな人間性と高い倫理性を身につけ、看護学の知とスキルを駆使し、対象ならびに対象を取り巻く環境と相互に作用しながら、最良のケアを創造し実践する人材を輩出すること。
- ・保健医療福祉の領域において、看護専門職者として他職種と協働しながら看護の独自性・専門性を発揮し、地域・国際社会に貢献できる人材を輩出すること。
- ・ひととして、看護専門職者として生涯成長し続ける人材を輩出すること。

4年間で看護師となるための充実した看護学教育を提供します。





卒業後の進路について

卒業時には、学士（看護学）を取得できると同時に、看護師国家試験受験資格が得られます。

卒業後の進路は、医療施設への就職、大学院への進学などがあります。

◎平成28年度より保健師教育（保健師国家試験受験資格）および助産師教育（助産師国家試験受験資格）は、大学院（博士課程前期課程）で行っています。



これから看護職を目指す皆さんに、ある患者さんがお書きになった詩を贈ります。

〈 ころろ 〉

先生が回診に来ます 看護師が検温に来ます
 友達が見舞いに来ます
 かわるがわるぼくを見下ろして 具合はどうかと尋ねます
 ぼくは、みんなを見上げて 相変わらずと答えます
 あなただけです ぼくと同じ低さに身をかがめて
 話しかけてくれるのは
 あなたは ベッドのふちに両肘をかけてしゃがみ
 肘の上に夢をのせてぼくをみつめ
 車いすを持ってきたから 散歩にでようといいます
 ぼくのころろははじめて輝き あなたに向かって流れだすのです



患者さまの病だけでなく、患者さまのきもち・ころろ、患者さままるごとを理解できる看護職者になってください。

専攻構成

検査技術科学専攻

検査技術科学専攻では何を学ぶか？

近年の医学および医療の分野における技術革新と発展には、優れた臨床検査技術の開発・応用が大きく寄与してきました。病気の早期発見、診断及び治療や健康状態の把握に必要な臨床検査は、今やまさに医療の中核的役割を担う1つの分野として位置付けられ、チーム医療においても中心的な立場に立っています。検査技術がこのように高度になって役割を広げ、医学・医療の向上に寄与するための重要な責務を負うようになった現在、その人材を養成する大学においては、より高度な知識及び技術と研究開発能力を獲得させる教育が必要です。検査技術科学専攻では、医療の重要な一角を占める臨床検査のプロフェッショナルを養成すべく、4年間の教育で臨床検査技師の国家資格を取得するために必要な履修をします。加えて、広く社会で指導的立場に立つ人材、研究職につく人材や国際的に活躍する人材の養成をも視野に入れて、生命科学や健康科学における幅広く学際的な教養や深い倫理性が身につくように、バランスのとれた教育カリキュラムを構成しています。また、必要な単位を取得すれば、健康食品管理士認定試験の受験資格を得ることもできます。

卒業後の進路について

検査技術科学専攻を卒業すると臨床検査技師国家試験の受験資格が得られます。卒業後すぐに就職する者はもちろん、大学院に進学する者も最終的には、臨床検査技師の国家資格を活用した進路を選んでいきます。近年、本専攻では学部卒業後も大学院に進学し、修士号を取得してから就職する者が約7割に達しています。大学院に進学する場合、2年間で修士号を取得して就職する他に、さらに学問を深めたい者は3年間の博士課程に進学して博士号を取得することが可能です。成績優秀者には飛び級制度もあります。就職については、幸い本学の卒業生はこれまで高く評価されており、病院就職希望者のほぼ全員が、近畿のみならず全国の中核病院に就職しています。また、検査センター、医療機器、試薬開発、治験関連などの企業に就職する者も少なくありません。大学教員、国公私立研究機関などの教育・研究職者も輩出しています。



遺伝子検査学実習



ウイルス検査学実習



臨床生理学実習



生体情報計測実習



病理組織細胞学実習



動物実験

検査技術科学専攻のトピックス (研究も含む)

検査技術科学専攻の教員は、大学院組織の病態解析学領域に属する教員が多く、いわゆる実験室での教育・研究が盛んです。そこでは生化学、分子生物学、生理学のような基礎医学から、免疫学、内分泌・代謝・糖尿病学、病理組織学、細菌学、血液学のような臨床医学まで、活発な教育・研究が行われています。また、大学院の国際保健学や地域保健学を担当し、地域や世界をフィールドにして感染症学や公衆衛生学などの教育・研究活動を展開する教員もいます。学部生は4年生になると1つの研究室に所属し、3年生までに学んだ知識をもとに、大学院生に混じって研究活動に参加して卒業研究を行います。多岐にわたる専門家のもとで、学部学生は生き生きと研究しています。このように大学ならではの研究・開発に直に触れることによって、実験の進め方や論理的な思考方法を学ぶことができます。卒業時には卒業研究論文集を作成し、研究成果の記録を長く保存します。

専攻構成

理学療法学専攻

理学療法とは

理学療法とは病気、けが、高齢、障害などによって運動機能が低下した状態にある人々に対し、運動機能の維持・改善を目的に運動、温熱、電気、水、光線などの物理的手段を用いて行われる治療法です。

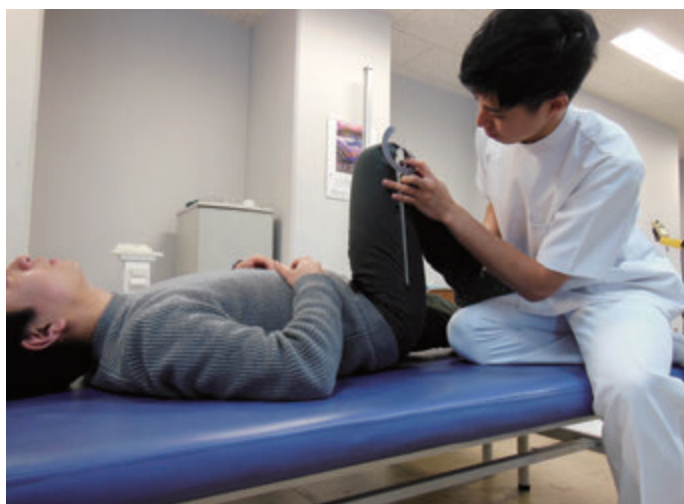
理学療法学専攻では何を学ぶか

1年次では、神戸大学全学共通授業を通して広い視野で考えることができる教養を高めます。

2年次以降の専門科目では、基礎医学（解剖学・生理学・運動学など）と臨床医学（内科学・外科学・整形外科学・臨床神経学・精神医学・小児科学など）を学び、身体機能や精神機能、疾病について理解を深めます。それと並行して、リハビリテーション医学や理学療法学の専門科目を学びます。学内で学んだ知識や理学療法技術をより確かな能力に高めるために、病院や医院で臨床実習を行います。臨床実習では、経験のある臨床教育指導者から指導を受けながら患者さんを担当し、患者さんの失われた機能と残された機能を評価し、活用可能な機能を最大限に引き出す治療技術を修得していきます。授業や臨床実習を通して疑問に思ったことを研究課題として、学生は専攻教員の指導のもとで理学療法研究を行い、論理的な思考を集大成する卒業研究にも取り組んでいきます。

卒業後の進路について

卒業すれば、保健士号が与えられ、理学療法士国家試験の受験資格が得られます。進路としては、一般病院や医院、リハビリテーションセンター、障がい者・高齢者の福祉施設、保健行政の専門職に就職します。また、理学療法能力をさらに高めるために、大学院博士前期課程（修士課程）に進学していきます。



理学療法士 (PT) とは?

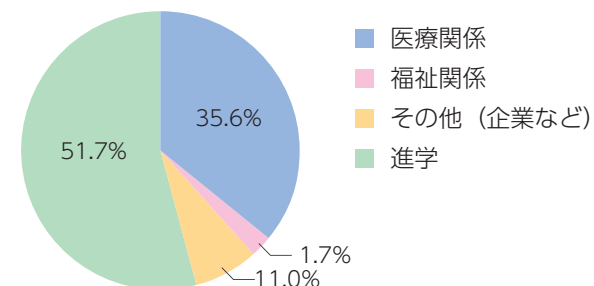
リハビリテーション医療の一員として、日常生活活動の再獲得を目標に運動療法や物理療法などの治療手段を用いて、障がい者にアプローチをします。最近では、リハビリテーション医学の枠を超え、障がいの予防、悪性腫瘍および進行性の難治性疾患などによる障がいに対する理学療法、あるいはスポーツ傷害や在宅療養している障がい者への理学療法を行っています。今日、疾病構造の変化や社会の要望に応じて、理学療法分野の診療業務が拡大してきています。理学療法学は実践的な学問で、今後の発展がますます期待されている学問領域です。

理学療法学専攻のトピックス

理学療法学専攻では、解剖学、生理学などの基礎医学との関連を重視して、科学的視点を持って理学療法学の理論と治療技術を学ぶことができます。

また、それを基に対象者の問題を解決し、全人的に援助する能力を養います。

基礎医学的手法を用いた研究の他に、呼気ガス分析装置などを用いた運動による代謝の変化の研究、歩行分析装置や重心動揺計を用いた姿勢・動作・歩行分析の研究、臨床医学的観点からの研究を行うことができます。



卒業生は幅広い分野で活躍しています

本学の卒業生は、大学病院、国立病院機構、地域の中核病院、回復期リハビリテーションを実施する専門病院、介護老人保健施設など、医療や福祉に関する様々な現場で活躍しています。

また、医療や福祉関係の一般企業や教育研究機関などへ就職するものもあり、幅広い分野においても活躍しています。

近年は大学院への進学者も増加しており、研究や調査を通じて、理学療法学の基盤確立に貢献しています。

卒業生は全国で活躍しています

地域別にみた卒業生の進路は、近畿圏を中心に、広く全国に及びます。



専攻構成

作業療法学専攻

作業療法とは

作業療法は、身体や精神に障害のある人たち(子供から高齢者まで)に対して行われるリハビリテーションサービスの一分野です。略してOT (Occupational Therapy) と呼ばれています。作業療法は手工芸だけでなく、日常生活における諸動作(たとえば食事や更衣動作など)や仕事・遊びなど、人間に関わるすべての諸動作(作業活動)を利用します。これらの作業活動によって、対象者の持っている望ましい身体機能や精神反応を引き出し、再び元の社会生活に適應できるよう援助します。悪いところを治すだけではなく、良いところを伸ばすという両面にアプローチする視点を持ち合わせています。

作業療法学専攻で学ぶこと

神戸大学全学共通授業にて個人の教養を高め、基礎科目でまず基礎医学と臨床医学を学び、人間についての理解を深めます。それと平行し、徐々にリハビリテーション医療や作業療法の基本的な理論・技術と心理学的援助に重点をおき、専門基礎科目において作業の種類や特徴・実施方法を学びます。専門科目(身体・精神・発達障害作業療法学)では、作業療法の臨床現場で遭遇する身体障害・精神障害・神経機能障害・発達障害・内部障害などの臨床的作業療法に重きをおき、様々な障害に応じた作業療法の知識や技術を学びます。

急性期医療から地域医療、保健、福祉に貢献できるよう、運動学的・生理学的・精神医学的・社会的な研究を背景とした基礎作業療法学教育と、障害を分析し援助方法を探究する研究や臨床での実践を背景とした臨床的教育が系統的に準備されています。したがって作業療法の対象となる人たちのあらゆるニーズに対応できる能力を高めることができます。

最終段階の臨床実習では病院など実際の医療現場で患者さんを担当し、現場の先輩作業療法士から指導を受けて、作業療法を試行しながら実力をつけます。



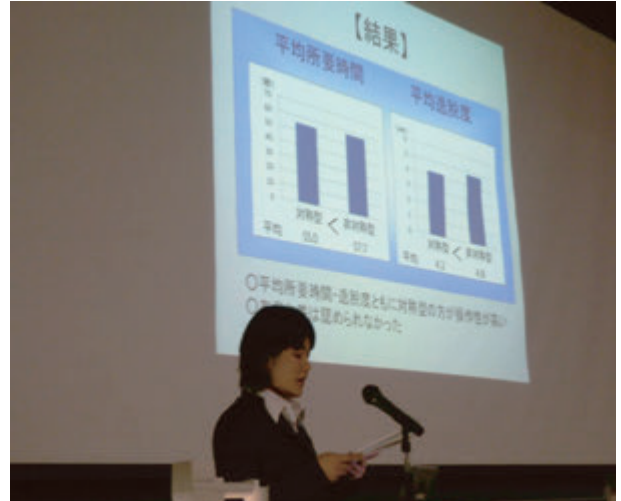
身体障害生活技術論実習(自助具の作成)



基礎作業療法学実習(陶芸)



検査測定実習



卒業研究発表

作業療法学専攻のトピックス

作業療法学専攻では、基礎医学を背景とした根拠のある作業療法学の理論と治療技術を学ぶことができます。特に対人援助技術の教育にも取り組んでいます。

卒業研究では、個別指導を受けながら、学生がもつ身近な疑問を研究テーマに整理し、テーマにあわせた研究手法を選び、研究計画を立て、実践し、まとめるという研究の一連の流れを経験し、学会で発表できる能力を養っています。

また専攻内の教員は、作業療法関連書籍を執筆、編集しています。

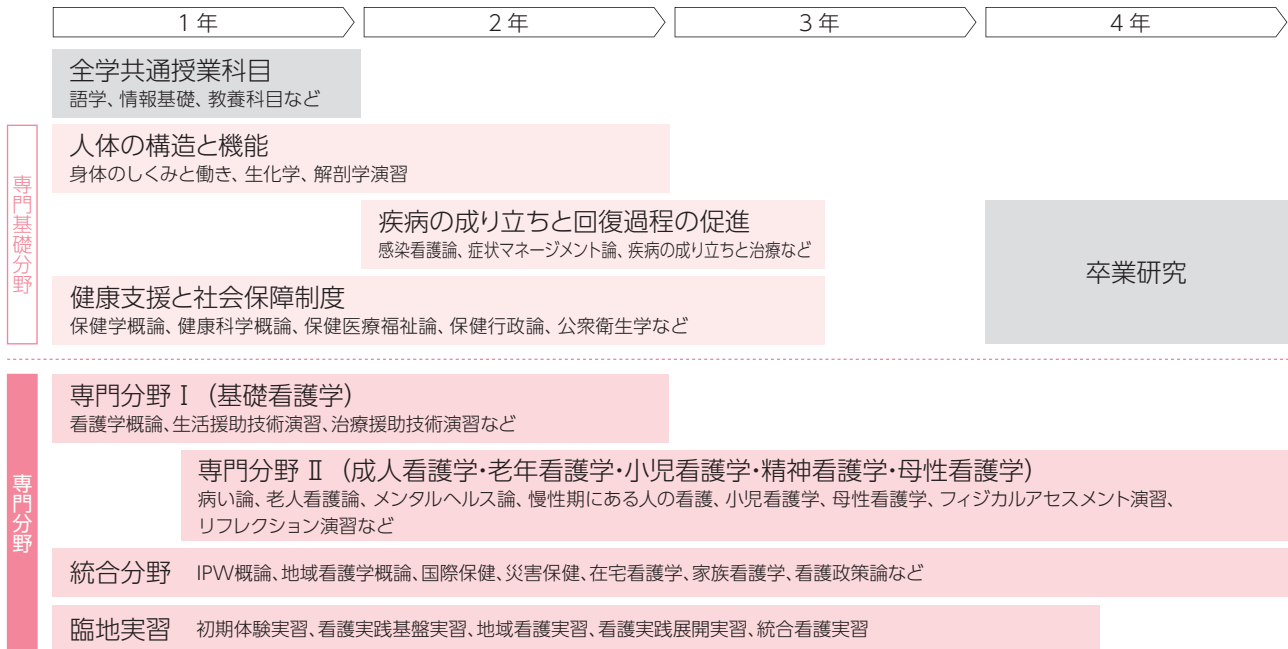
卒業後の進路について

卒業時には、学士（保健学）を得ると同時に、作業療法士国家試験受験資格が取得できます。卒業後は、病院・リハビリテーションセンター・療育センター・福祉センター・デイケア施設・老人保健施設などでの勤務のほか、大学院へも進学します。

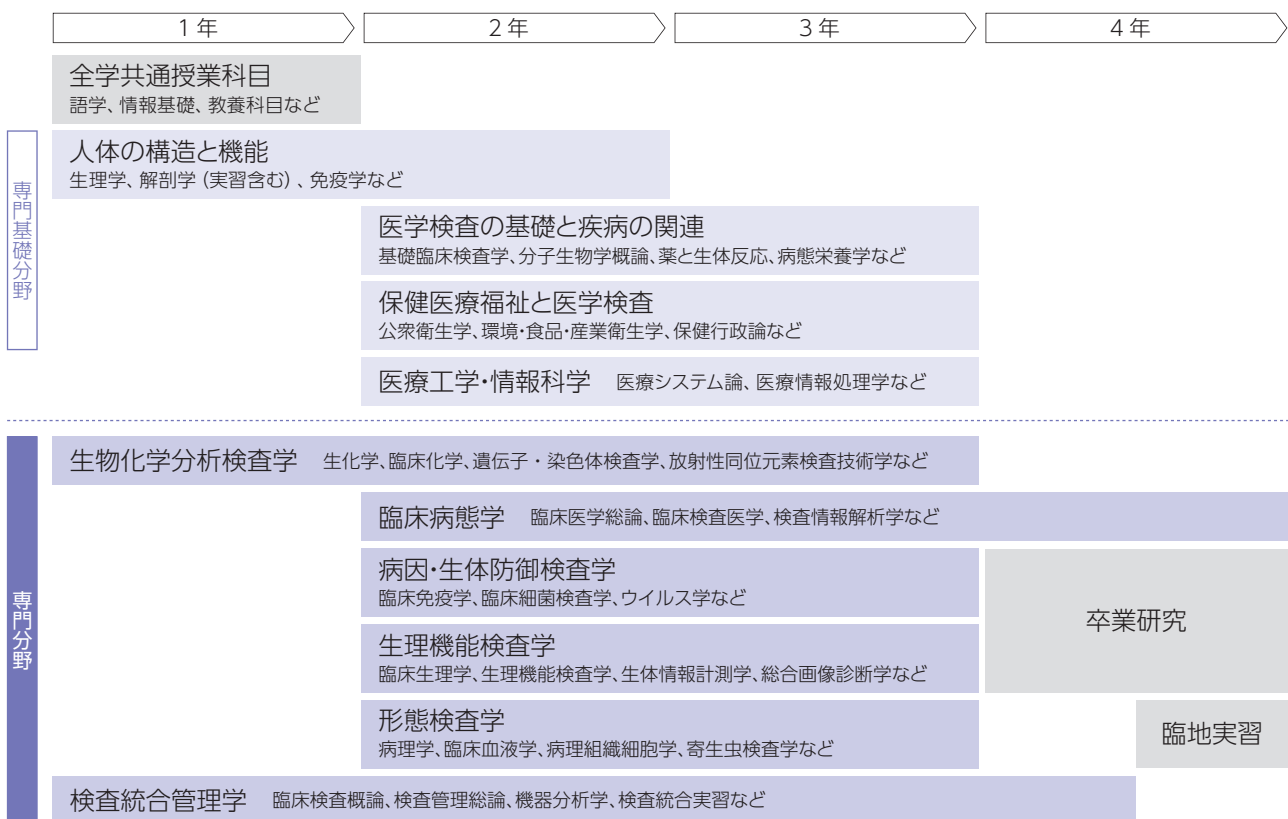


カリキュラム

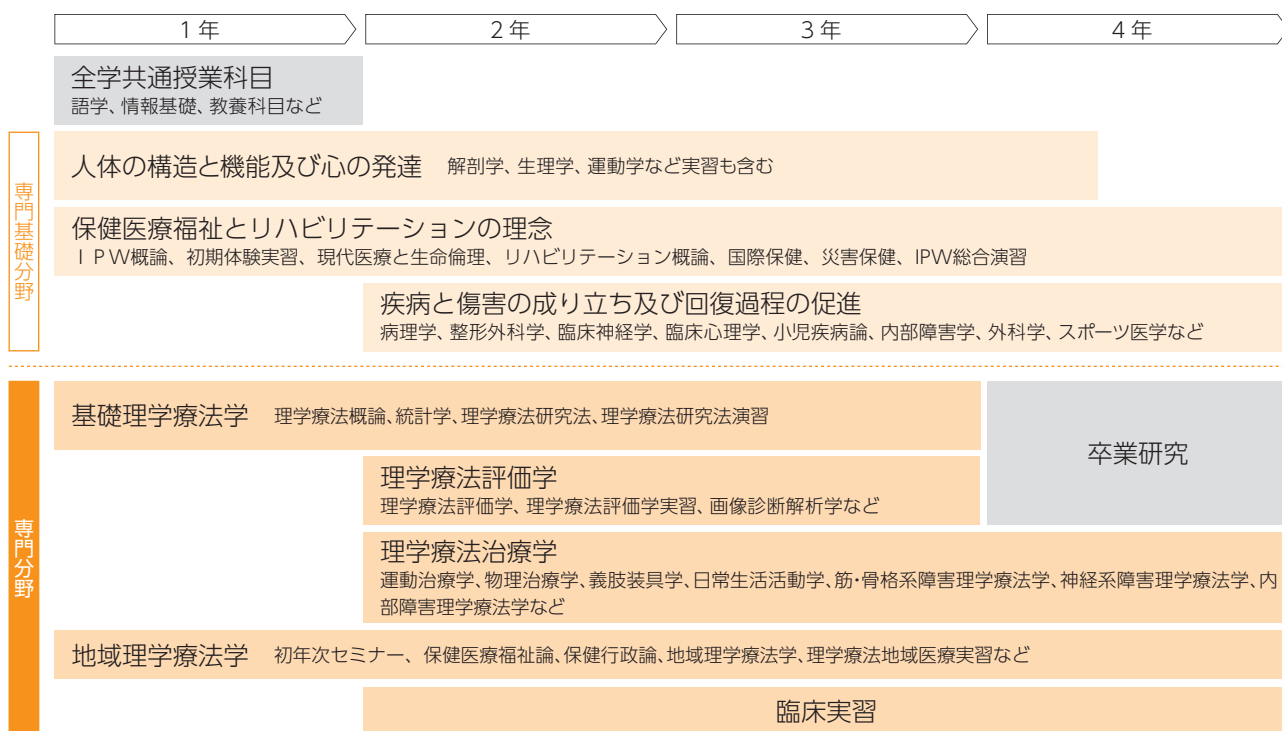
看護学専攻



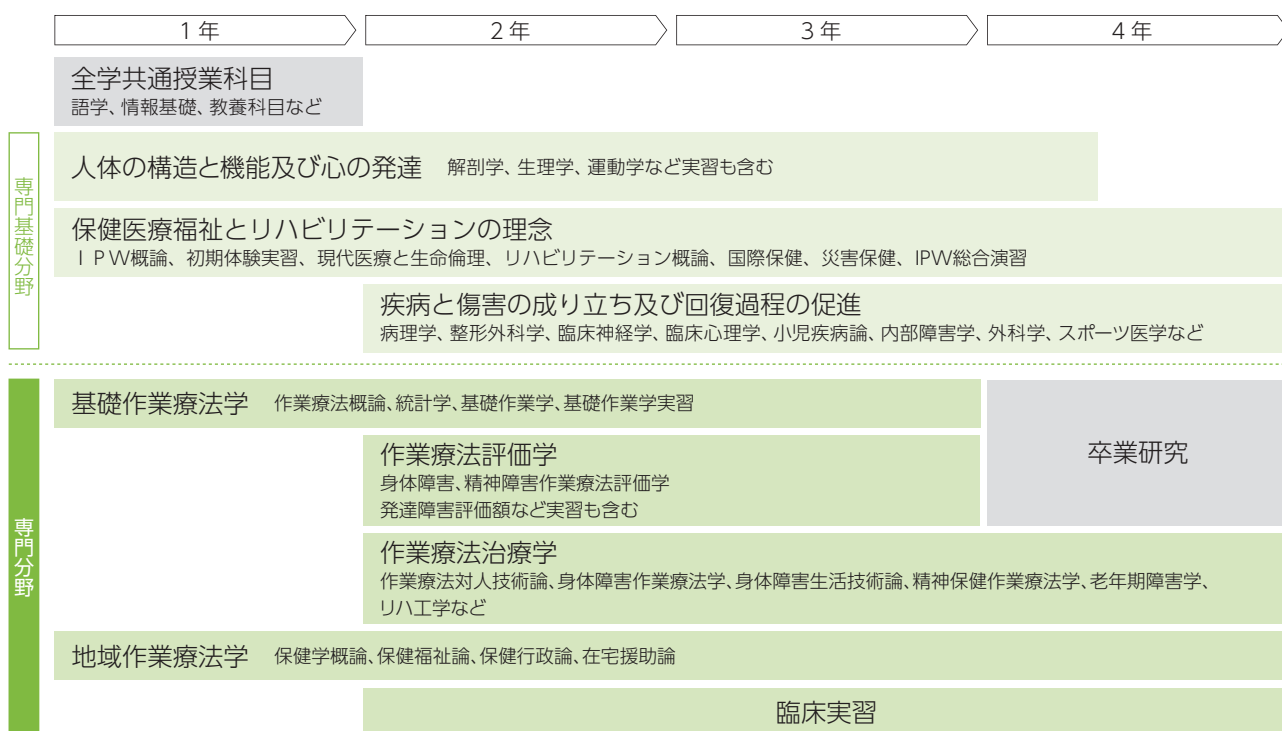
検査技術科学専攻



理学療法学専攻



作業療法学専攻



教員紹介

看護学専攻



ちえこ
グライナー智恵子 教授

○プロフィール
岩手県出身。都内の大学病院に9年間勤務した後、教員になりました。大阪大学大学院博士後期課程修了。看護学博士。
○教育・研究分野など
専門は老年看護学で、教育では老年看護に関連した科目を担当します。研究では、認知症高齢者とそのご家族を支援するための研究に取り組んでいます。

いしい あつえ
石井 豊恵 教授



○プロフィール
聖路加看護大学卒業、大阪大学大学院博士後期課程修了(保健学博士)、救命救急、循環器看護の臨床を経て現職。
○教育・研究分野など
主に基礎看護学関連科目を担当します。研究は、看護者が働きやすい環境、道具を整える事や看護の技術に関して取り組んでいます。それを対象者の安全と安楽に繋げたいと思っています。

いすみ ひさこ
和泉 比佐子 教授



○プロフィール
栃木県出身。聖路加看護大学卒業、行政保健師として勤務しました。札幌医科大学保健医療学部准教授を経て2015年から現職。
○教育・研究分野など
専門領域は公衆衛生看護学です。主に地域看護・在宅看護に関連した科目を担当します。健康づくりや地域看護アセスメントに関する研究と保健師の現職教育に取り組んでいます。



ちば りえ
千葉 理恵 教授

○プロフィール
横浜市生まれ。看護師として病院に勤務した後、東京大学大学院医学系研究科博士課程修了(保健学博士)。2018年より現職。
○教育・研究分野など
主に精神看護学に関する科目を担当しています。精神疾患をもつ人々が地域の中で自分らしく生活していくための支援について研究しています。



さいとう
齋藤 いずみ 教授

○プロフィール
北海道出身。筑波大学大学院医学研究科修了(博士医学)、東京日赤医療センターにて助産師として豊富な臨床事例を体験後、北海道大学の助教として教員生活をスタート。
○教育・研究分野など
母性看護学と助産学の関連科目を担当。研究テーマは「周産期の安全と質の保証」。実証データをもとに臨床に還元できる研究を信条とする。2014年から現在まで放送大学TV「母性看護学」主任講師を継続中。



しおはた ひでゆき
塩谷 英之 教授

○プロフィール
神戸大学医学部卒業、神戸労災病院、神戸大学第一内科(現循環器内科)、兵庫県立成人病センターを経て現在に至る。
○教育・研究分野など
臨床生理学、生理機能検査学総合画像診断学などを担当します。臨床生理学を基盤としてユニークな研究を行い、その結果を臨床の場に還元し、多くの人々の健康維持に貢献することを目指しています。



まつお ひろし
松尾 博哉 教授

○プロフィール
産婦人科医です。これからの周産期医療を支える助産師・看護師の育成に力を注いでいます。
○教育・研究分野など
女性の性周期に関連する健康障害である性感症、月経前緊張症、更年期障害、骨粗鬆症が研究テーマです。少しでも女性の健康向上に貢献できればと取り組んでいます。



にしむら のりゆき
西村 範行 教授

○プロフィール
平成元年神戸大学医学部卒業。神戸大学医学部小児科、米国スクリプス研究所(TSRI)を経て、令和元年より現職。
○教育・研究分野など
小児科医で、新生児、小児に関わる講義を担当します。小児の発達とその異常について、基礎研究から臨床研究、疫学研究まで行っています。



ほしな なおひろ
法橋 尚宏 教授

○プロフィール
1993年東京大学大学院医学系研究科博士課程中退。東京大学講師などを経て、2006年より神戸大学教授。
○教育・研究分野など
小児看護学、家族看護学が専門。著書は『新しい家族看護学：理論・実践・研究(法橋尚宏編集)、メチカルフレンド社、2010』など、100冊以上。原著論文も100本を超える。



こさか さやか 准教授

○プロフィール
京都市出身。神戸大学大学院医学系研究科博士後期課程修了。行政保健師、海外での保健活動等の経験を経て教員になりました。
○教育・研究分野など
公衆衛生看護学、国際保健学に関連する科目を担当しています。保健師の専門能力の向上、在留外国人の健康支援、国内外の災害保健に関する研究等に取り組んでいます。



みやわき いくこ
宮脇 郁子 教授

○プロフィール
明石生まれ。神戸大学医療短大(本学の前身)卒業後、循環器看護の臨床を経て東京医科歯科大学院で成人看護学を学びました。
○教育・研究分野など
専門分野は慢性看護学・循環器看護学です。患者さんご自身が、日々の生活の中でうまく病気に向きあひ、できるだけ負担が少ない状況で療養行動が継続できるための看護について教育・研究を行っています。



うえすぎ ゆうこ
上杉 裕子 准教授

○プロフィール
広島県出身。大阪大学大学院医学系研究科博士課程修了(看護学博士)。7年の臨床経験の後、看護教育の道に進みました。
○教育・研究分野など
教育は主に基礎看護学科目を担当しています。本学の取り組み多職種協働のためのIPW統合演習や、国際交流にも携わっています。研究は運動器疾患患者のQOLや、国際看護・異文化看護に関する内容に取り組んでいます。



みうら やすし
三浦 靖史 准教授

○プロフィール
神戸大学医学部医学科卒業、神戸大学大学院医学研究科修了。リハビリテーション、リウマチ、整形外科専門医
○教育・研究分野など
リハビリテーション概論、スポーツ医学、IPW概論などを担当しています。関節リウマチ、身体障害者補助犬、がんリハビリ、旅行医学などに関する研究を行っています。



せんば なおみ
干場 直美 准教授

○プロフィール
熊本県出身。神戸大学大学院医学系研究科博士課程後期課程修了。看護師・助産師の臨床経験後、教員になりました。
○教育・研究分野など
主に助産学を担当しています。助産学は周産期をメインに、女性の一生の健康に関わる専門分野です。女性のライフサイクルにおける健康維持増進に関する研究に取り組んでいます。



なかやま きみこ
中山 貴美子 准教授

○プロフィール
佐賀県出身。神戸大学大学院医学系研究科博士後期課程修了。自治体で保健師を経験した後、教員になりました。
○教育・研究分野など
公衆衛生看護学関連の教育を担当します。エンパワメントの視点から、地域住民の持つ力を発揮できる地域づくりを目指して、地区組織活動等の研究に取り組んでいます。



ふくだ あつこ
福田 敦子 講師

○プロフィール
兵庫県生まれ。神戸大学医技短大看護学卒業。神戸大学病院看護師を経て教員に。佛大卒業、本学大学院修士・博士修了。
○教育・研究分野など
病院で手術等、治療を受ける患者・家族の看護の講義および実習を主に担当します。主な研究は、外来がん化学療法を受けている患者の看護に関することです。



なかにし やすひろ
中西 泰弘 講師

○プロフィール
愛媛県出身。神戸大学医療技術短期大学部、佛教大学文学部、大阪教育大学大学院を卒業して現在に至る。好きなものはサッカーと宝塚歌劇です。
○教育・研究分野など
主に基礎看護学領域の講義、演習と実習を担当します。技術教育を実践しながら、技術の習得方法に関する研究や教育方法に関する研究などに取り組みたいです。



ふくだ あつこ
福田 敦子 講師

○プロフィール
兵庫県生まれ。神戸大学医技短大看護学卒業。神戸大学病院看護師を経て教員に。佛大卒業、本学大学院修士・博士修了。
○教育・研究分野など
病院で手術等、治療を受ける患者・家族の看護の講義および実習を主に担当します。主な研究は、外来がん化学療法を受けている患者の看護に関することです。

ほそな みお
細名 水生 講師



○プロフィール
東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科総合保健看護学専攻博士後期課程を修了。同大学医学部附属病棟血管・肝胆膵・食道胃外科病棟に勤務。
○教育・研究分野など
主に看護実践学(基礎看護)に関する授業を担当しています。研究は、臨床看護、看護実践、看護教育、健康情報分析学に関するテーマで取り組んでいます。

いわさき みか
岩崎 三佳 助教



○プロフィール
兵庫県出身。助産師。北海道医療大学大学院修士課程修了。病院で臨床経験後バン格拉デシユにて母子保健活動に従事。
○教育・研究分野など
母性看護学・助産学の演習及び実習を主に担当。研究者としては、発展途上ですが、今までの経験から看護の質の評価について理解を深めて、社会還元できればと考えています。

うちむら りえ
内村 利恵 助教



○プロフィール
大阪府出身。神戸大学医学部保健学科卒業後、看護師、保健師として勤務しました。神戸大学大学院博士前期課程修了。
○教育・研究分野など
地域看護学・在宅看護の実習等を担当します。研究テーマは、虐待発生予防としての医療機関と保健師の連携等、行政保健師の専門性に関することです。

きむら ゆうじ
木村 裕治 助教



○プロフィール
大阪府出身。本学保健学科看護学専攻を卒業後、神戸大学医学部付属病棟で10年間勤務。同大学院博士前期課程修了。
○教育・研究分野など
主に成人看護学分野を担当します。研究では、アレルギー疾患を持つ患者さんの療養生活への支援に関する研究に取り組んでいます。

しょうがき じゅんこ
正垣 淳子 助教



○プロフィール
本学卒業後臨床経験を経て、東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科博士前期課程を修了し専門看護師となりました。
○教育・研究分野など
主に入院や外来で治療を受ける患者・家族の看護についての実習や講義を担当します。また、研究では、入院を繰り返す慢性心不全患者に関する研究に取り組んでいます。

たにぶら あやみ
谷淵 文美 助教



○プロフィール
兵庫県出身。本学保健学科看護学専攻を卒業後、同大学院保健学研究科博士前期課程修了。その後、神戸大学医学部附属病院で臨床経験を経て現職。
○教育・研究分野など
主に成人看護学分野を担当します。研究では心疾患患者、その中でも特に心臓デバイス挿入済み患者を対象とした研究に取り組んでいます。

とだ まどか
戸田 まどか 助教



○プロフィール
東京都出身。神戸大学大学院医学系研究科博士前期課程修了。産科、NICU/GCU病棟に助産師として勤務後、現在に至る。
○教育・研究分野など
母性看護学・助産学の講義、実習を担当。周産期における新生児と母親、家族に対する地域生活へ継続できるより良い看護について考え、教育・研究に取り組んでいます。

はやし ゆうた
林 佑太 助教



○プロフィール
福井県出身。大学卒業後、精神科病棟や外来で約10年勤務。千葉大学大学院医学薬学府修士課程修了。趣味はテニスです。
○教育・研究分野など
主に精神看護学分野の科目を担当しています。研究では、精神看護の質の向上や、対話を通じたケア(認知行動療法など)の普及をテーマにしています。

ひろた みさと
廣田 美里 助教



○プロフィール
神戸大学医学部保健学科卒業後、精神神経科病棟で精神科看護を実践していました。
○教育・研究分野など
精神看護論、看護実践活動実習Ⅰ(精神)等を担当しています。臨床経験を活かしながらも、固定観念にとらわれない看護教育、研究を目指しています。

ほりぐち ほんな
堀口 範奈 助教



○プロフィール
大阪府出身。神戸大学医学部保健学科卒業後、病院や助産所などで勤務しました。同大学博士課程前期課程修了。
○教育・研究分野など
小児・家族看護学分野の講義と実習を担当します。研究としては、母と子を取り巻く家族や環境について取り組んでいます。

やまぐち ゆうこ
山口 裕子 助教



○プロフィール
奈良県出身。京都大学医学部人間健康科学科看護学専攻を卒業後、同大学附属病院で臨床経験を積みました。その後、神戸大学大学院保健学研究科博士課程前期課程修了し、現職に至ります。
○教育・研究分野など
老年看護学分野の教育・研究を担当しています。アジア諸国の健康維持・増進に関わることをテーマに研究に取り組んでいます。

りゅうの ひろちか
龍野 洋慶 助教



○プロフィール
大阪府出身。本学卒業後、病棟・老健・訪問看護等で13年間勤務しました。保健学博士(大阪大学)。
○教育・研究分野など
老年看護学の講義と実習を担当します。研究は、介護サービス利用者や家族介護者の支援について追跡調査をしています。また、地域在住高齢者の健康長寿の要因の解明に取り組んでいます。

検査技術科学専攻

いとう みつひろ
伊藤 光宏 教授



○プロフィール
神戸大学医学部卒業、同大学院医学研究科修了。学振特別研究員を経て米国ロックフェラー大学に留学。血液内科医です。
○教育・研究分野など
臨床血液学を担当します。白血病など造血器腫瘍が専門です。最近は転写をキーワードに、生命現象とその破綻としての疾患の機序を、血液にこだわらず研究しています。

かめおか まさのり
亀岡 正典 教授



○プロフィール
北海道大学大学院医学研究科修了。奈良県立医大、阪大微研、日本・タイ感染症共同研究センターなどの勤務を経て、2012年より保健学科に勤務。
○教育・研究分野など
ウイルス感染症や国際保健に関する教育を担当します。また、ヒト病原性ウイルス、特にエズウイルス(HIV)やデングウイルス(蚊媒介感染症)の基礎研究や分子疫学研究を行っています。

かちだ しんご
鴨志田 伸吾 教授



○プロフィール
神奈川県出身です。神奈川県JA伊勢原協同病院検査室で約16年間、藤田保健衛生大学医学部第一病理学で6年間勤務しました。
○教育・研究分野など
病理学に関連した科目とその実習を主に担当します。抗癌剤の効果予測を通じて癌個別化治療に貢献することを目指し、病理と臨床が連携した研究に取り組んでいます。

きど よしあき
木戸 良明 教授



○プロフィール
昭和61年神戸大学医学部卒業。神戸大学医学部第二内科(現糖尿病・内分泌内科)勤務を経て、平成20年より現職。
○教育・研究分野など
臨床化学とその実習をメインで担当します。専門は糖尿病学であり、研究のテーマは糖尿病一特に膵β細胞不全一の発症機構の解明です。

しらかわ としろう
白川 利朗 教授



○プロフィール
神戸生まれです。神戸大学医学部医学科卒業、同大学院博士課程修了。米国ヴァージニア大学泌尿器科に2年間留学しました。
○教育・研究分野など
臨床細菌学をメインで担当します。細菌、ウイルスなどの生物由来製剤を用いた新規治療薬(バイオロジクス)の研究開発を行っています。

教員紹介

なかざわ みなと
中澤 港 教授



○プロフィール
学生時代から助手まで16年間、東京大学医学部保健学科人類生態学教室、山口県立大、群馬大を経て2012年から現職。
○教育・研究分野など
国際保健・疫学・公衆衛生学に関連する講義を担当。研究はP.N.Gやソロモン諸島でのフィールドワークが主。詳しくはwebで。
<http://minato.sip21c.org/>

はしらもち あきら
柱本 照 教授



○プロフィール
京都生まれ、神戸大学医学部卒業。京都府立医大、米国立衛生研究所(NIH)を経て2003年に神戸大学に戻りました。2012年より現職。
○教育・研究分野など
臨床免疫学を担当します。基礎研究(ベンチ)から臨床(ベッドサイド)に還元できるようなリウマチ性疾患の研究を進めていきます。

ほり ゆういち
堀 裕一 教授



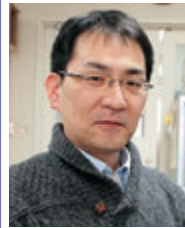
○プロフィール
神戸大学医学部医学科卒業、同大学院博士課程修了、Stanford大学客員研究員、帰国後COE上級研究員を経て現在に至る。
○教育・研究分野など
外科が専門です。生化学と実習を担当します。研究分野は幹細胞生物学が専門で、癌研究や再生医学研究に興味がある学生をお待ちしています。

やすだ ひさみ
安田 尚史 教授



○プロフィール
神戸大学医学部医学科卒業。同第二内科、老年内科(総合内科)及び地域社会医学・健康科学講座を経て、平成24年より現職。
○教育・研究分野など
臨床生理学や総合画像診断学などを担当します。専門は、内科学(糖尿病、自己免疫、老年医学)で、1型糖尿病や慢性炎症性疾患の発症機構を研究テーマにしています。

いりこ ひでゆき
入子 英幸 准教授



○プロフィール
麻布大学大学院 環境保健学研究科 博士後期課程修了。愛媛大学 博士研究員、鳥取大学 医学部 助教を経て、2014年より現職。
○教育・研究分野など
寄生虫検査学、公衆衛生学などを担当します。寄生虫の生物学に興味をもち、赤血球に寄生するマラリア原虫の寄生適応の仕組みを研究しています。

おおさき ひろゆき
大崎 博之 准教授



○プロフィール
高知県出身、香川大学大学院博士課程修了。15年間の病院勤務の後、香川・愛媛の県立大学を経て、2016年より現職。
○教育・研究分野など
基礎臨床検査学、病理学などを担当します。患者さんに苦痛を与えずに採取できる尿を用いて、泌尿器腫瘍や糸球体腎炎などを早期発見するための研究を行っています。

こまい ごういちろう
駒井 浩一郎 准教授



○プロフィール
筑波大学生物学類卒業。同大学院修了後、民間企業研究員として勤務後、神戸大学助手を経て現職。博士(医学)、日本リウマチ学会評議員。
○教育・研究分野など
専門：分子生物学、免疫学。研究テーマ：遺伝的多型や遺伝子発現変動による生体機能への影響の解明。
教育：分子生物学、免疫学、統計

しげむら かつみ
重村 克巳 准教授



○プロフィール
大阪出身です。泌尿器科医です。現在も神戸大学附属病院で臨床医の傍ら、感染制御部室員としても活動しています。
○教育・研究分野など
臨床細菌学を主に担当しています。研究分野は感染症の遺伝子診断・癌の新規治療の開発・低侵襲手術(ロボット手術など)の技術開発です。国際的共同研究も活発に行っています。

もり まさひろ
森 止弘 准教授



○プロフィール
一般内科医を経て、医学研究者(神経生理学)として歩んできました。皆さんの保健学学習を応援したいと思っています。
○教育・研究分野など
正常な脳の働きとそのメカニズムを、神経の電気信号を記録・解析して、解明し、認知症、統合失調症など脳精神疾患の予防、診断、治療に貢献しようとして努力しています。情報科学に関する各科目。

うつぱ ちえ
鞆 千恵 助教



○プロフィール
静岡県立大学大学院薬学研究科博士課程修了。薬剤師。感染症国際共同研究で中国とインドネシアに7年間常駐勤務しました。
○教育・研究分野など
肝炎ウイルスの増殖機構、肝炎ウイルス・デングウイルスに対する抗ウイルス物質探索やワクチン開発を行っています。

こたき ともひろ
小瀧 将裕 助教



○プロフィール
神戸大学保健学科卒業、同大学院保健学研究科修了。神戸大学インドネシア拠点常駐研究者として約2年間勤務しました。
○教育・研究分野など
ウイルス学実習・寄生虫学実習を担当します。主にデングウイルス、HIVの研究を行ってきました。ワクチン、診断薬、治療薬開発につながる研究をしたいと考えています。

はせがわ なつみ
長谷川 菜摘 助教



○プロフィール
神戸大学保健学科検査技術科学専攻卒業。同大学院保健学研究科修了後、京都第一赤十字病院検査部勤務を経て現職。
○教育・研究分野など
臨床での経験を活かし、様々な実習、特に血液学実習や生理学実習に貢献できればと思っています。研究では転写因子をキーワードに様々な病態の解析に携わりたいです。

みよし まこと
三好 真琴 助教



○プロフィール
神戸大学大学院博士課程修了後、香川県立保健医療大学で勤務しました。
○教育・研究分野など
短鎖脂肪酸投与による侵襲下病態のコントロール、特に腸管への効果について研究中です。



理学療法学専攻

あきすえ としひろ
秋末 敏宏 教授



○プロフィール
兵庫県出身。神戸大学医学部卒、同大学院医学研究科修了、医学博士。米国クリーブランドクリニックに約2年間留学。2014年より現職。
○教育・研究分野など
整形外科医です。整形外科・リハビリテーションに関連する講義を担当します。整形外科学(特に腫瘍学)の基礎から臨床まで研究を行ってきました。多職種連携での運動器疾患に対する研究を推進したいと思います。

いしかわ あきら
石川 朗 教授



○プロフィール
北海道出身。札幌医科大学保健医療学部より2011年に本学に赴任しました。
○教育・研究分野など
専門分野は呼吸理学療法：呼吸リハビリテーション、高齢者・障害者の生活環境です。その分野において臨床データからエビデンスを構築することが、ライフワークです。

ふじの ひでみ
藤野 英己 教授



○プロフィール
岡山大学大学院医歯学総合研究科博士課程修了、医学博士。7年間の臨床を経験した後に大学で教育・研究に携わって来ました。

○教育・研究分野など
物理治療学や運動学を主に担当します。筋萎縮、糖尿病、心疾患、ガンに対する包括リハビリテーションについて、運動、物理療法、栄養サポートを用いた研究や無重力研究を行っています。

もりやま ひでき
森山 英樹 教授



○プロフィール
鹿児島県出身。広島大学大学院保健学研究科修了。埼玉県立大学、広島大学などを経て、現在に至ります。

○教育・研究分野など
筋骨格系理学療法学を主に担当しています。運動器障害に対する理学療法法の科学的根拠を創出し、有効性を立証するために、基礎医学的及び統計学的手法を用いた研究を行っています。

あらかわ たかみつ
荒川 高光 准教授



○プロフィール
名古屋大学医療技術短期大学部卒。理学療法士。神戸大学医学系研究科・神経発生学分野(旧第一解剖)博士課程修了。

○教育・研究分野など
肉眼解剖学的手法を主に用いた人体解剖学・比較解剖学が専門です。とくに骨格筋とその神経支配を追及しています。

いざわ かずひろ
井澤 和太 准教授



○プロフィール
佐賀県出身。筑波大学大学院修了。理学療法士として聖マリアンナ医科大学大学院に20年間勤務しました。

○教育・研究分野など
おもに循環器・代謝性疾患に対し、「臨床現場から出る疑問を科学的に検証し、還元すること」を目指して臨床・研究していました。

おの れい
小野 玲 准教授



○プロフィール
大阪生まれで、本校を卒業後、東北大学医学部附属病院で臨床を行いました。

○教育・研究分野など
授業はADL実習、神経系疾患理学療法、地域理学療法などです。大学院時代に臨床疫学に興味を持ち、運動器疾患の疫学調査や色んな疾患のエビデンス作りを行っています。

おの くみ子 助教



○プロフィール
岡山県出身。本学理学療法学専攻卒業後、臨床・大学院での研究生活を経て、H19年10月より本学に着任しています。

○教育・研究分野など
臨床で糖尿病患者が多いことを実感し、大学院で学んだ運動生理学をベースに、現在では内部障害、特に糖尿病の理学療法について教育・研究を行っています。

まえしげ のりおき
前重 伯丈 助教



○プロフィール
大阪市出身。本学理学療法学専攻卒業後、病態解析学領域博士後期課程を修了。2013年11月に本学着任。

○教育・研究分野など
物理療法の組織修復・再生に対する効果および至適刺激条件の解明、各種慢性潰瘍の予防・管理方法の確立をテーマとして、高齢社会への貢献を目指しています。



こわ ひさとこ
古和 久朋 教授



○プロフィール
1995年東京大学医学部卒業。2004年同大学院修了。MGH留学後2010年より神戸大学神経内科講師・准教授。2017年より現職。

○教育・研究分野など
神経内科医で臨床神経学や臨床生理学などを担当します。研究テーマはアルツハイマー病などの認知症の予防や早期発見につながる社会システムの構築です。

たねむら るみ
種村 留美 教授



○プロフィール
広島大学大学院保健学研究科大学院博士前期後期課程修了。京都大学医学部保健学科学准教授を経て現在に至ります。

○教育・研究分野など
教育については身体障害作業療法学と実習等を担当します。研究分野は、①高次脳機能障害の評価開発および介入技法や社会支援、②認知症の在宅支援について研究しています。

作業療法学専攻

はしちと たけし
橋本 健志 教授



○プロフィール
徳島大学医学部卒業、神戸大学大学院博士課程修了。メリーランド大学研究員、神戸大学附属病院精神科病棟医長・講師などを経て、現職。

○教育・研究分野など
精神医学、精神障害リハビリテーション学などを担当。薬物療法家だが、薬だけでなく心理社会リハも、人に役立つものは科学になると信じる。

ながお とおる
長尾 徹 准教授



○プロフィール
神戸大学医療技術短大卒、作業療法士免許取得。同大学博士課程修了、保健学博士。三木市立三木市民病院勤務から本学へ。

○教育・研究分野など
身体障害者領域の作業療法が専門。研究では主に作業療法の基礎的部分について実施していますが、技術的には仕事を好んで行う傾向にあります。

のだ かずえ
野田 和恵 准教授



○プロフィール
作業療法士。神戸大学医学系研究科博士課程修了。2005年より現職。

○教育・研究分野など
専門分野は身体障害作業療法(主に脳血管障害)。研究テーマは高齢者の在宅生活支援。留学生と日本の保健を学ぶ作業療法フィールド実習、生活技術論などを担当。

はやし あつこ
林 敦子 准教授



○プロフィール
東北大学文学部卒業。京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程修了。東北大学大学院医学系研究科を経て現在に至ります。

○教育・研究分野など
臨床心理学、高次脳機能障害学などの授業を担当。脳損傷者や認知症者の認知機能障害について研究しており、リハビリや介護に活かせる知見を得ることも目標です。

よつもと
四本 かやの 准教授



○プロフィール
大阪府堺市出身。作業療法士免許取得後、精神科リハビリテーションの実践を地域と病院内で10年間実践し、神戸大学医学部保健学助手を経て現職。

○教育・研究分野など
精神保健のすべての作業療法関連科目と実習を担当します。精神障害や精神疾患をもっても、希望を失わずに済むための方法を見出すことが研究のゴールです。

うちだ ともこ
内田 智子 助教



○プロフィール
神戸市出身。神戸大学医療技術短期大学部卒。本学博士課程後期課程修了。三田市民病院で約10年間臨床勤務を経て現職。

○教育・研究分野など
授業は生理学実習、動作解析実習や身体障害作業療法関連科目を担当します。研究は、利き手を損傷した人の非利き手によるペン操作の特性の解析をテーマにしています。

教員紹介

えびす ともえ
胡 友恵 助教



○プロフィール
広島県出身。作業療法士。神戸大学大学院博士課程前期課程修了。2か所の病院で精神科作業療法に6年半従事し、現職。
○教育・研究分野など
専門分野は精神障害領域の作業療法です。長期入院統合失調症患者を対象とした研究をしています。

ささがわ ひろこ
篠川 裕子 助教



○プロフィール
新潟県出身です。作業療法士として北九州市立総合療育センター等で勤務し、県立広島大学大学院修士課程を修了しました。
○教育・研究分野など
発達障害に対する作業療法に関する講義を担当します。発達障害のあるこどもさんの発達の特徴と生活支援について研究を行っています。



特命教員

おき ゆうたろう
沖 侑太郎 特命助教



○プロフィール
広島県出身。本学の博士後期課程修了（保健学博士）。理学療法士として、急性期～在宅で勤務。2020年より現職。
○教育・研究分野など
専門分野は、呼吸リハビリテーション、介護予防です。現在は、高齢者を対象とした複合的な認知症予防プログラムの有効性を検証するプロジェクトを担当しています。

写真で見る神戸大学



正門



神戸大学百年記念館



深江キャンパス



楠キャンパス



六甲台本館



鶴甲第一キャンパス



鶴甲第二キャンパス



六甲台第二キャンパス 桜



六甲台第二キャンパス



六甲台第二キャンパス 紅葉

キャンパスシーン



食堂



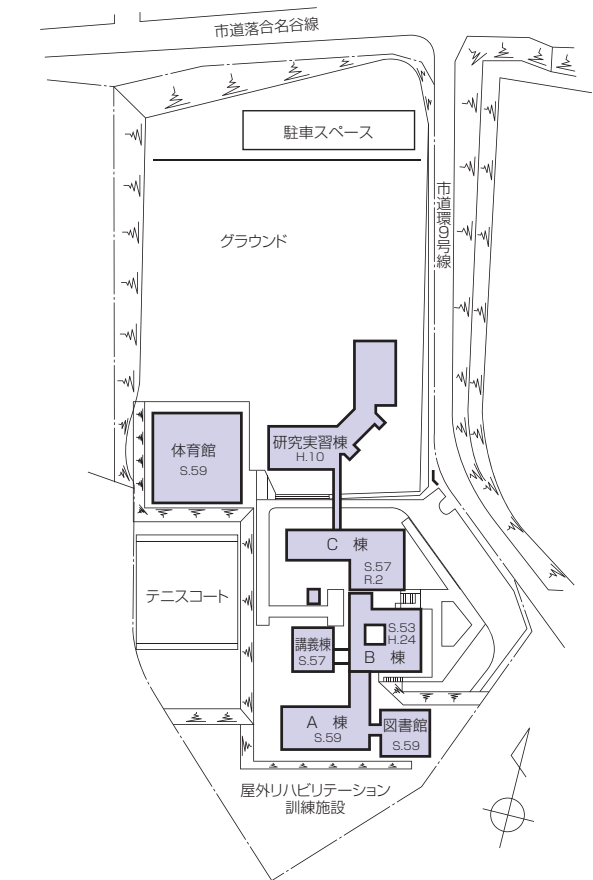
情報処理教室



売店



ラーニングcommons



自習室



大学祭



私たちの大学生活

看護学専攻



message

私は、患者さんに寄り添い側で支えていける看護師になりたいと思い、看護学を専攻しました。本学では、他専攻や医学科、薬科大の学生と共に学習する機会を通して、多職種連携の中での看護師の役割についてより深く学ぶことが出来ます。

学校生活では、講義と実習だけでなく、部活やサークル活動などの課外活動を両立させている学生も多く、充実した日々を送っています。休日には、友人との遊びやバイトなど、息抜きもしながら学習を進め、様々な経験を通して将来の医療職者として成長していくことが出来る環境です。写真はタイの病院やチェンマイ大学での実習風景です。

Time Table

	月	火	水	木	金	土・日
1時限目	講義	講義	講義	講義	講義	バイト、遊び。 Afterや土日に 部活やサークル活 動を楽しんでいる 学生もたくさんい ます。
2時限目	講義	講義	講義	実習	講義	
3時限目	講義	講義	講義	講義	実習	
4時限目	講義	講義	講義	講義		
5時限目	実習	講義		講義		
After			バイト		バイト	

高校生への アドバイス



2019年度より国際分野の演習が選択できるようになり、タイの大学病院への留学が出来るようになりました。自分の興味のある分野や、将来やりたいことがきつとみつかると思います。皆さんの入学、是非お待ちしております。

検査技術科学専攻



message

私は、患者さんの診断を決定する上で重要となる検査の実際を知り、患者さんにとってよりよい検査結果を提供し、患者さんの病態に関して正確な診断の手助けをしたいと考え、検査技術科学を専攻しました。

学校生活では、実習で多くの先生方に臨床において重要となる技術や専門知識を教えていただき、また名谷祭では素敵な先輩方や友人と一緒に学園祭を盛り上げたりと非常に充実した日々を送っています。将来的には、検査技術科学専攻で身に付けた高度な専門知識や技術を活かして、医療従事者として、病院・企業から必要とされる人材を目指したいと考えています。

Time Table

	月	火	水	木	金	土・日
1時限目		講義	講義	講義	講義	アルバイト、遊び など、サークル活 動に励んでいる学 生もいます。
2時限目	講義	講義	講義	講義	講義	
3時限目	実習	実習	講義	実習	実習	
4時限目	実習	実習	講義	実習	実習	
5時限目				実習	実習	
	アルバイト		アルバイト			

高校生への アドバイス



実習では、実際に臨床検査で用いられる検査技術を体験したり、講義で様々な専門知識を学ぶことができます。非常に多くの内容を学習するので、その中から自分に興味のある分野を見つけることができると思います。

理学療法学専攻



message

もともとスポーツに関わる仕事がしたくて、スポーツトレーナーに関連した国家資格でもある理学療法士になることを決めました。理学療法士になるための様々な勉強を重ね、さらに実習を通して実際に患者さんの治療に関わることで、理学療法士が患者さんの人生に与える影響がいかに大きいかを実感することができ、自分も患者さんの人生を変えられる存在になりたいと思うようになりました。理学療法士という職業は、患者さんにとって最も身近な存在であり、非常に責任の大きい職業ですが、それだけやりがいのある仕事だと思います。

Time Table

	月	火	水	木	金	土・日
1時限目	実習	授業	授業	授業	授業	部活・サークル・ 遊び・バイト・勉強など
2時限目	実習	授業	授業	授業	授業	
3時限目	授業	実習	授業	実習	実習	
4時限目	授業	実習	授業	実習	実習	
5時限目	授業	実習		実習	実習	
	バイト	サークル	バイト		バイト	

高校生への アドバイス



受験勉強はやる時とやらない時の切り替えが大事だと思います。しっかりと計画を立てて、勉強をしない時間は思い切り自分の好きなことをしてストレスを発散してください。たまに人に勉強を教えるのも、勉強したことを整理できていいと思います。

作業療法学専攻



message

私は、人と関われる仕事がしたいと思い医療系の学部を選択しましたが、「作業療法士」という職業がどのようなものか全く知りませんでした。作業療法士は「ひとは作業をすることで元気になれる」という考え方に基いて、障害を持った方が再び生き生きと暮らせるよう手助けをします。4年間の授業や実習を通して徐々に作業療法の魅力や可能性を感じ、今ではとても素敵な職業だと思います。病院以外でも作業療法士の活躍できる場はあります。“自分の理想とする作業療法士”を目指し、仲間たちと共に頑張ります。

Time Table

	月	火	水	木	金	土・日
1時限目	講義	講義	講義	講義	講義	サークル、アルバイト、 課外活動、遊びなど
2時限目	講義	講義	講義	実習	講義	
3時限目	講義	講義	講義	実習	実習	
4時限目	実習	実習	講義	実習	実習	
5時限目	実習	実習		実習		
			アルバイト		アルバイト	

高校生への アドバイス



受験勉強は大変でストレスも大きいと思いますが、息抜きも忘れずに頑張ってください。勉強だけでなく、何事も経験だと思っていろんなことにチャレンジしてみてください。その経験はきっとどこかで役に立つと思います！応援しています！

卒業生からのメッセージ

看護学専攻



看護師として働き始めて12年目になります。就職した時は集中治療室に配属となり、そこで約5年半を過ごしました。今は小児科病棟で働いています。

集中治療室での5年半はあっという間でした。重症な患者さんを目の前にして戸惑うこともありましたが、優しくもあり厳しくもあった先輩たちのご指導のもと、多くの事を学ぶことができました。集中治療室は命を救う場であり、治療が優先されます。しかし、そんな中でも、看護の視点を忘れずに患者さんと向き合うことを心がけてきました。治療が最優先になる場であるからこそ、患者さんが置き去りにならないように、患者さんの思いに寄り添えるような看護を目指してきました。患者さんが生活者であるということも忘れずに、少しでもその人らしく過ごせるようにと、何度もディスカッションを繰り返したこともいい思い出になっています。それには、看護師だけでなく医師や理学療法士、臨床工学技士など、

さまざまな職種のかかわりがありました。患者さんを中心に、ある1つの目標に向かってそれぞれの専門職が自分たちのできることを一生懸命探していました。大学で学んだチーム医療を肌で感じることができました。

就職して3年目になった頃からは、後輩指導にかかわる機会も多くなりました。大学で出会った先生の影響もあり、もともと教育には興味がありましたが、実際に指導にたずさわるようになり、さらに教育について学びを深めたいと思うようになりました。院内の教育指導者コースを受講し、教育指導者として部署教育の中心を担っていたこともありました。指導をする中で、後輩から学ぶことや気づかされるのがたくさんありました。また、他部署の教育指導者の人との情報交換もいい刺激になりました。大変な事もありますが、楽しさややりがいを感じています。



今までの多くの人との出会いが、私を成長させてくれました。神戸大学では多くの人と出会うことができます。多くの人との出会い、さまざまな考え方に触れて、こころ豊かな医療従事者を目指して頑張りたいと思います。



神戸大学を卒業して、早十数年が経とうとしています。私は卒業後、小児科専門病院での看護師、大学院修士課程での学生生活を経て、現在は大学で教員をする傍ら、子どもとその家族により良い看護ができるよう小児看護専門看護師としての活動も行っていきます。

学生時代の私は決して優秀な学生ではなく、勉強はかなりおろそかにしてはいましたが、4回生の卒業研究で

指導を受けながら、病気をもつ子どものお父様の話を聞き、卒業研究として、まとめ上げたことは強く記憶に残っています。その中で、先生には自分自身が考えていたことを大切にしてもらえまし、そのことは、現在、自分が実習指導をする際に、学生が自分で気づいたことを深め、必要な看護を考え、実践できるような指導を心掛けていることにつながっていると思います。また、神戸大学医学部保健学科は他専攻の学生と一緒に学ぶ環境があり、それぞれがどのような専門性を持っているのかを知ることができたことは、今の私の活動に役に立っていると思います。

現在でも学会や大学院において、お世話になった先生方とお会いする機会があり、いつも温かい声をもらい、相談に乗ってもらうなどしています。受験生の皆さんにとって、現在の私は遠い未来のことで想像し難いとは思いますが、まずは神戸大学で看護の基本を学んでみてはいかがでしょうか。

検査技術科学専攻

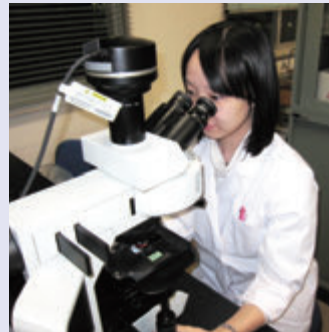


私は検査技術科学専攻を卒業後、そのまま大学院に進学し、博士課程前期課程を終了しました。本学の検査技術科学専攻では、臨床検査技師の国家資格取得を目指して臨床検査に関わる知識と技術を学ぶだけでなく、最先端の研究に携わることができます。学部4年では各自が興味を抱く研究室に所属し、卒業研究を通して研究の基礎を学びますが、私はさらに深く学びたいと考え、大学院進学を決意しました。

私が所属した研究室では癌化学療法の個別化の実現・普及を目指し、治療効果を予測できるバイオマーカーの研究を進めています。この個別化治療とは、個々の患者さんに適した治療を選択して実施することで、治療効果やQOLを高められると期待されています。もちろん、研究は簡単なものではありませんが、患者さんの役に

立てると信じ、2年間努力しました。このような貴重な経験を通して、自分の課題に責任をもってやり遂げることや周囲と密なコミュニケーションを取り合うことといった、社会人にとって大切なものも学ぶことができました。さらに研究と並行して、癌診断に深く関わる「細胞検査士」という資格を取得するための基礎知識を学びました。このように、研究に加え、より専門性の高い検査の知識を身につけることができたのも、大学院進学による貴重な経験だったと思います。

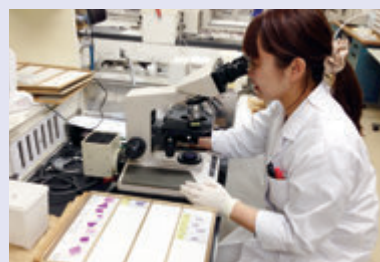
検査技術、そしてそれをより発展させる研究に興味のある方は、ぜひ本学の検査技術科学専攻と大学院で学んでみてはいかがでしょうか。私は、この神戸大学・神戸大学大学院で過ごすことができ、本当に良かったと思っています。



私は現在、臨床検査技師として病院で働いています。病院には多くの臨床検査部門が存在します。患者さんの血液や尿などを化学的に分析し情報を得る臨床化学検査、感染症の原因となる微生物の同定を行う細菌検査、直接患者さんに接して生体検査を行う心電図検査や超音波検査など、それぞれの臨床検査から得られる情報は医師が正確な診断や治療をするために欠かせない存在です。私は臨床検査部門の中で病理検査という業務を担当しています。病理検査とは、病変を含む身体の組織や細胞を患者さんから採取し、肉眼的・顕微鏡的に観察したのち、良性・悪性の診断や病気の進行度を決定する検査です。私の仕事内容は、その病理診断のために採取された組織や細胞の標本を作製することです。病理検査は、疾患部位そのものから採取された標本を扱うため、正確な診断に一番近いとても大切な検査であると思います。そのため、責任感や集中力が必要な業務ですが、それだけやりがいと充実感があります。

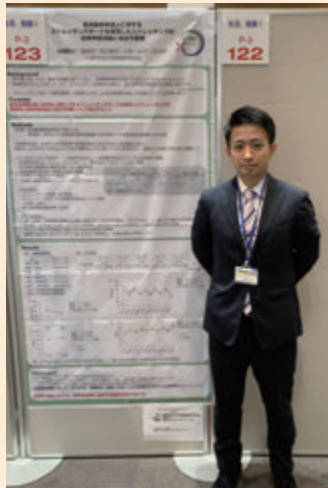
私は本学の検査技術科学専攻で、臨床検査技師として働くための基礎を築くことができました。特に4年生の卒業研究では、最も興味があった病理学に関する研究を選択し、その後の仕事にも関わる専門的な知識や技術を身につけることができました。

私は在学中、互いに高め合い、支え合うことの出来る多くの友人と会うことができました。それらの友人は就職してからも医療従事者として一緒に成長し、励まし合えるとても大切な存在です。一人でも多くの方々が本学の検査技術科学専攻に興味を持ち、また、素敵な大学生活を送っていただければうれしいです。



卒業生からのメッセージ

理学療法学専攻



第74回 日本体力医学会会

んだり、アルバイトをしたりと、充実した4年間を過ごすことができました。神戸大学は1学年の人数が少なく同期の仲が良く、卒業後の今でも時々集まって学生時代の話をしたり、現在の話をしてもらっています。先生方は、それぞれの領域の第一線で活躍されている方ばかりであり、質の高い教育を受けることができます。さらに、学年を超えた交流が密であり、先輩方も

私は、神戸大学を卒業し、理学療法士免許を取得後、そのまま神戸大学大学院博士課程前期課程に進学し、非常勤で理学療法士として働きながら研究に取り組み、修士号取得後は神戸市内の急性期総合病院で働きながらさらに大学院博士課程後期課程に進学し、臨床と研究の両方に取り組んでいます。

神戸大学時代は、講義の数も多く大変な思いも多くなりましたが、準硬式野球部に所属しながら部活動に打ち込

理学療法士としてだけでなく、行政・研究・企業など様々な分野でご活躍されており、そういった先輩方の話を聞く機会も多いため、学生のうちから将来の視野が広がります。

私は、自身の怪我をきっかけに理学療法士を志し、神戸大学に入りました。入学前は“理学療法士”といえば、整形外科で働き、スポーツ選手などを相手に仕事をする、といったイメージを持っていましたが、4年間を通して、理学療法士の幅広さを知りました。卒業研究では、運動生理学という分野について研究をする中で、わからないことを明らかにし、社会に貢献することの大切さを知り、研究をしたいと思い、大学院に進学しました。大学院では、研究の傍ら、理学療法士として働く中で、臨床での疑問を研究の中で明らかにし、患者さんに還元したいと思い、現在に至ります。

大学入学から7年と、まだまだ経験は浅いですが、この短期間で多くの経験ができ、多方面から刺激が得られたのも、神戸大学ならではの思いです。ぜひ、神戸大学で刺激の多い充実した4年間を過ごしていただければと思います。



病院での勉強会

私は神戸大学を卒業した後、横浜市スポーツ医科学センターで理学療法士として勤務し、学生や社会人スポーツ選手、トップアスリート（プロや日本代表レベル）、スポーツ愛好家など様々な環境で活動する多種目の方々を対象とした理学療法に従事しています。

スポーツ選手に対する理学療法で特に重要なことは、怪我からの早期復帰に加え、パフォーマンスの向上と怪我の再発予防を両立させることです。そのため、治療に関する知識だけではなく、各種スポーツ動作中に身体へ加わる負荷（バイオメカニクス）を推定して理学療法プログラムを作成します。さらに、スポーツ選手に関わる理学療法士の役割は、クリニックで選手の怪我の治療をすることだけではありません。我々は、スポーツ現場でのトレーナー活動や怪我からの早期復帰や予防に関する学術活動（研究）を推進するなど、診療業務以外にも広く活動しています。

スポーツ現場での活動としては、サッカーやバスケットボールのプロチーム、パラスポーツのゴールボール日本代表チームなどと協定を結び、練習や試合、遠征へのトレーナー帯同やメディカルチェック等を実施しています。また、スポーツ現場に対する怪我予防の啓蒙活動も行っています。一例として、小・中学生の野球選手を対象とした野球クリニックを開催し、投球障害の知識に関する講義から投球フォーム解析、怪我



予防エクササイズの指導などを行なっています。

今の職場に来られたのは、神戸大学での4年間のおかげです。神戸大学は、整った教育環境で熱意のある学生が多数在籍し、「縦横の繋がりが強い」のが長所であると思います。1学年約20人と少数ですが、先輩や後輩、大学院生や先生方との繋がりが密です。私も入職時にはこの繋がりを活かし、大学院の先輩から現場職の紹介を頂くことができました。

理学療法士を志したきっかけを大切に、ぜひ神戸大学へ来て学び、自分の夢を叶えてください。



作業療法学専攻



私は現在、作業療法士として精神科の病院で働いています。病院には様々な疾患の方が入院されていますが、同じ疾患でも症状の現れ方が人により様々です。その異なる様々な状態を理解するには、実際の経験と多岐にわたる具体的な知識が必要です。しかし、その根本にはその典型例の理解、基礎的な症例の知識が不可欠です。神戸大学

では基礎を重視した内容の授業を行っているため、「なぜ」「どうして」という根本の部分からしっかり学ぶことができます。

また、私達の仕事は人を対象としており、特に精神科における作業療法では自分自身も患者さんの回復をサポートする有用な道具の一つとなり得ます。そのため、患者さんの症状だけでなく、長所や性格、思いや希望、過

去や環境など様々なことを含めて一人一人についてその人を知ることが大切です。その上で、その人らしい生活が送れるよう共に考えお手伝いをするわけですが、その際、私一人でなく、その患者さんに関わる他職種のスタッフと連携することが必須です。この点でも神戸大学には他職種との協力を学ぶ授業もあり、とても役に立っています。

また、専門授業は少人数制であるため、各分野で活躍されている先生方のご指導や、目標を同じにする仲間との学びは自分自身についての理解も深め、医療職に携わるにあたっての人間性のみならず、社会人としてのマナーも身に付きます。熱心な先生方は卒業後も親身に相談にのってくださり、共に学んだ仲間とは現在も切磋琢磨し、良い刺激としてスキルアップへの活力となっています。皆さんも、財産となる学びや出会いを神戸大学で得てみませんか！



私は現在、回復期の病院で作業療法士として働いています。私の病院では、脳血管障害をはじめ、神経難病、脊髄損傷といった様々な疾患の患者様が社会復帰をしていく手助けを行っています。

作業療法では、機能訓練や、訓練室内のトイレや浴槽など模擬的な場面を利用した日常生活訓練、調理などの家事動作訓練、趣味活

動へのアプローチなどを行い、必要な人にはさらに、外出訓練や、自宅訪問をして自宅環境の調整や動作指導なども行っています。他にも、患者様がこち良い生活が出来るよう、便利な道具を作ったり、動作の指導もしています。一人一人に必要なことが異なるので、毎回試行錯誤が必要となり、そのおかげで日々新鮮で楽しいです。また、できなかったことが一人でできるようになった時の患者様の笑顔と「ありがとう」の一言は、本当に作業療法士をやっていて良かったなと感じる瞬間です。

神戸大学では、親身な先生方が多く、人数が1学年あたり20人と少ないので、丁寧な指導をして頂きました。私が好きであった基礎作業学の授業では、陶芸や編み物など多くの活動を体験し、治療に必要な作業について学びました。その知識は、楽しみを取り入れたリハビリを提供する上でも、今非常に役立っています。在学中には、病院実習、解剖学実習、実技練習などもあり、座学以外からも多くのことを学べます。また、卒業した今でも、先生方や先輩・後輩を含めた勉強会も定期的開催されています。4年間、実習やテストなど大変なことも多いですが、かけがえのない仲間たちに出会え、多くの事を学び経験でき、充実した学校生活が送れると思います。受験勉強は大変だとは思いますが、夢に向かって頑張ってください。



CLUB & CIRCLE



保健学科サッカー部

保健学科サッカー部は、毎週火曜日の放課後18:30、土曜日の10:30から活動しています。現在はグラウンドの関係で、体育館でフットサルを行っています。初心者も多く、みんなで楽しく活動しています。

名谷バスケットボール部

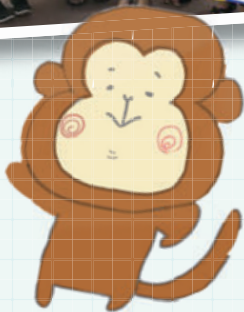
名谷バスケ部は毎週月・金曜日の授業後に活動しています。自由なバスケをモットーにみんなで試合をして楽しんでいます。男子・女子関係なく、他専攻の人とも仲良くなれます。夏と冬の合宿ではキャンプやスノボに行くなどしています。



名谷国際交流サークル

神戸大学ではたくさんの留学生を受け入れています。私たち名谷国際交流サークルは、留学生が来た際、日常生活のサポートや休日に日本の紹介をしたりしています。留学生と一緒に観光に行くと新たな発見があり、普段なにげなく住んでいる日本について改めて考える機会にもなっています。

現在はタイのチェンマイ大学、台湾の台北医学大学、インドネシアのガジャマダ大学から保健学科、保健学研究科に留学生が来ており、その滞在期間中に交流することが主な活動となります。そのほかの活動としてはメンバーで新歓やクリスマスなどのイベントを行い、年に数回集まって先輩後輩仲良く交流しています。コミュニケーションは助け合いながらなので英語が話せなくても大丈夫です。みなさんが来てくれることを楽しみに待っています！



茶道部



キャンパス内にある和室で茶道のお稽古に励んでいます。外部から先生がいらしてくださり、丁寧に教えてくださいます。

茶道の経験は、中学生の頃からずっとお稽古していたという部員から大学で始めた部員までさまざまですが、レベルに合わせて教えて頂きながら、和気あいあいと活動しています。

名谷祭ではお茶会を開き、家族や友達、先生方にお茶を振舞わせていただいています。

和室でお茶やお菓子をいただいたりお稽古をしたり、お茶の先生、顧問の先生や部員とお話したりするのは、私たちにとって、慌ただしい大学生活の中でほっと一息つける、大切な時間です。

手話サークルぺんぺん草

手話サークルぺんぺん草は、手話を使ったゲームや様々な企画を通して、楽しく手話に触れることのできるサークルです。六甲から名谷へキャンパスが変わっても続けることができ、他学部の学生と交流ができるのはもちろん、他大学や地域の手話サークルと合同で活動する機会もたくさんあります。名谷キャンパスでの学びは忙しくなりますが、「手話が将来患者さんの手助けになるかもしれない」という共通の思いで、メンバー一同楽しく活動を続けています。



公式テニス部

保健学科硬式テニス部は、テニスサークルに入りたいけど名谷から六甲まで遠い、そんな保健学科生のための部です。

活動は所属している人たちで日程調整を行い、より多くの人に参加できる曜日、時間に行なっています。

部活といっても、サークルのような雰囲気なので、バイトや授業で忙しくても、自分の予定に合わせて参加できます。

楽しくテニスをするのがモットーなので初心者の方も大歓迎です。お待ちしております。



その他

神戸大学アダプテッドスポーツクラブ、園芸部、保健学科軽音サークルC.C、子どもの見守りボランティア、保健学科バレーボールサークル

INFORMATION

1 入学定員・取得学位等

専攻名	修業年限	入学定員	取得学位	国家試験受検資格
看護学専攻	4年	80人	学士(看護学)	看護師
検査技術科学専攻	4年	40人	学士(保健衛生学)	臨床検査技師
理学療法学専攻	4年	20人	学士(保健学)	理学療法士
作業療法学専攻	4年	20人	学士(保健学)	作業療法士
合計		160人		

2 入学志願者数等（令和2年度）

専攻	看護学	検査技術科学	理学療法学	作業療法学
社会人特別入試	募集人員	若干名	若干名	若干名
	志願者数	5	0	0
「志」特別入試	募集人員	4	2	2
	志願者数	4	6	5
前期日程	募集人員	70	28	15
	志願者数	154	69	36
後期日程	募集人員	6	10	3
	志願者数	76	93	40
計	募集人員	80	40	20
	志願者数	239	168	81
入学者数	81	40	21	21

3 国家試験合格状況（平成29～令和元年度実施分）

試験種類	令和元年度		平成30年度		平成29年度	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
看護師	73	71	85	81	56	56
臨床検査技師	40	31	44	27	45	37
理学療法士	22	22	24	23	21	19
作業療法士	17	17	14	14	14	14

4 令和元年度卒業者の就職先等の状況

専攻	卒業者数	就職者数	県内就職					県外就職				進学者数	その他
			神大病院	国公立病院	公的機関	私立病院	民間	国公立病院	公的機関	私立病院	民間		
看護学専攻	74(1)	60	20	7	3	5	0	15	4	5	1	11	3
検査技術科学専攻	40	7	0	0	1	3	3	0	0	0	6	30	3
理学療法学専攻	23	8	0	0	0	1	0	1	1	4	1	13	2
作業療法学専攻	17	15	0	1	0	6	0	0	0	8	0	2	0
計	154	90	20	8	4	15	3	16	5	17	8	56	8

※()内は令和元年9月末卒業者人数で内数

神戸大学医学部保健学科の沿革

神戸大学附属図書館保健科学図書室

神戸大学医学部保健学科の沿革

- 昭和24年 4月 兵庫県立医科大学附属高等看護学院設置
- 42年 6月 国立に移管
- 44年 4月 医学部附属衛生検査技師学校設置
- 53年 8月 須磨区友が丘（名谷地区）の現地に移転
- 56年10月 専門学校に換わる医療技術短期大学部に看護学科、理学療法学科、作業療法学科を設置
- 平成 6年10月 短期大学部に換わる神戸大学医学部保健学科に看護学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻を設置
- 11年 4月 大学院医学系研究科保健学専攻（修士課程）設置
- 13年 4月 大学院医学系研究科保健学専攻（博士課程）設置
- 16年 4月 国立大学法人法の施行に伴い、設置者が「国立大学法人神戸大学」となる
- 20年 4月 大学院保健学研究科博士課程設置
- 28年 4月 大学院保健学研究科保健学専攻博士課程前期課程に保健師コース及び助産師コースを設置

神戸大学附属図書館保健科学図書室

保健科学図書室は名谷キャンパスに設置され、専門科目の学習・研究に必要な図書・雑誌が収集・整理されています。

また、インターネット利用や文書作成のためのパソコンも設置され、快適な学習の場となっています。

（2年生以上は、医学分館への申し込みにより、医学分館の24時間特別利用が可能です。詳細は医学分館ホームページをご覧ください。）

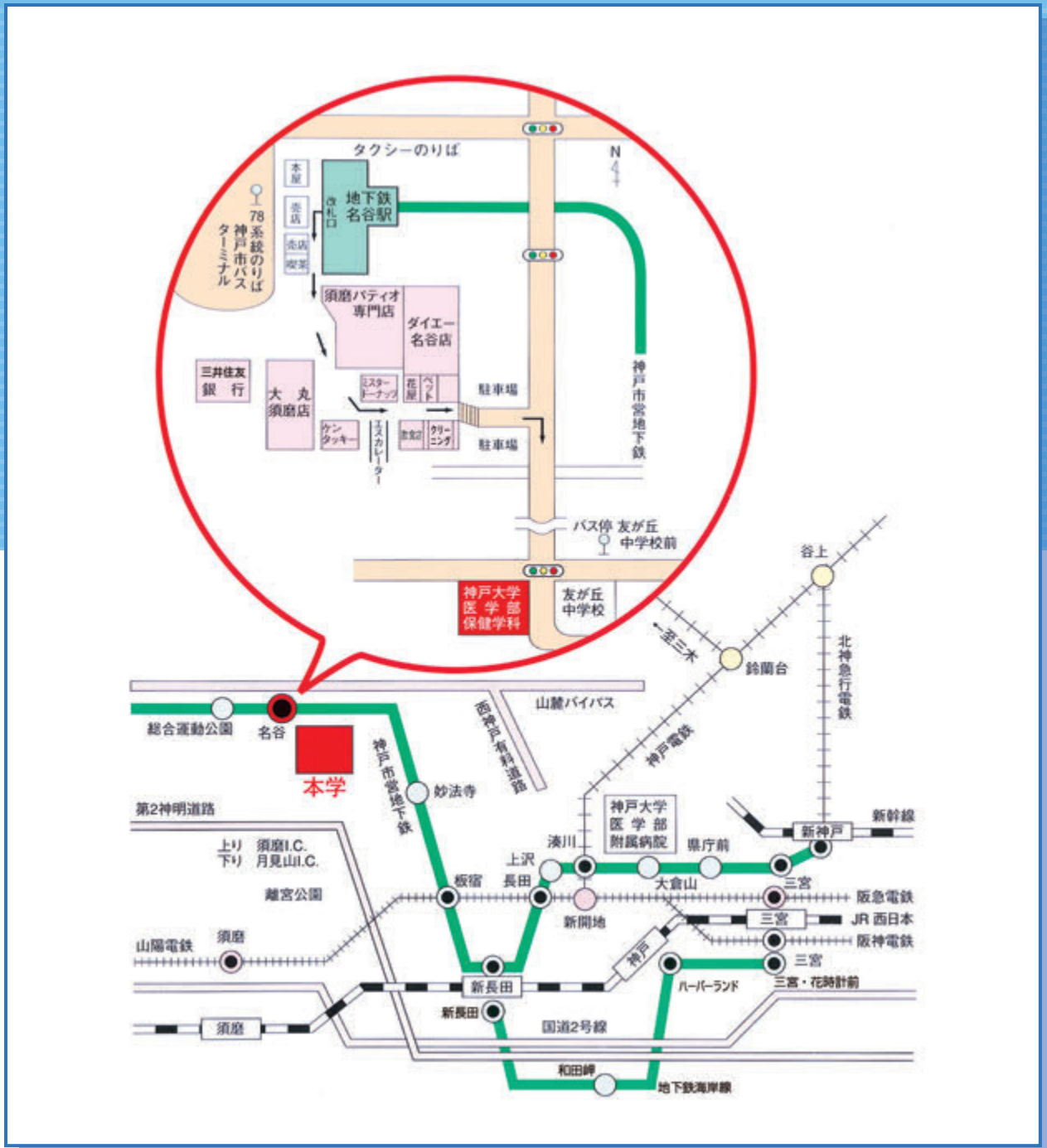
●開館時間

通 常 期		休 業 期	
平 日	土 曜 日	平 日	土 曜 日
8:45～21:00	10:00～18:00	8:45～17:00	休 館

●蔵書冊数（平成31年3月現在）

	図 書	雑 誌
和 書	50,395冊	764種類
洋 書	7,902冊	200種類
計	58,297冊	964種類





- 利用交通機関
- 神戸市営地下鉄西神山手線「名谷駅」下車、南東へ徒歩15分。
(神戸市営地下鉄「三宮駅」～「名谷駅」間約20分)
 - 市バス・78系統「友が丘中学校前」下車徒歩3分。
 - 印は他線との乗換え可能な駅を示す。

神戸大学医学部保健学科

〒654-0142 神戸市須磨区友が丘7丁目10番2

TEL (078) 796-4504

FAX (078) 796-4509